2026 年 11 月 16 日（月）

報道関係各位
プレスリリース

株式会社SkyDrive

世界最大の垂直飛行技術の学会「VFS」主催の Heli Japan 2026 にて最優秀論文賞を受賞 ～SKYDRIVE（SkyDrive 式 SD-05 型）の機体開発および型式証明プロセスの先進性が国際的に評価～

コンパクトな「空飛ぶクルマ」（※1）の開発・製造・販売を行う株式会社 SkyDrive（本社：愛知県豊田市、代表取締役 CEO 福澤知浩、以下「SkyDrive」）は、垂直飛行技術の国際学会である Vertical Flight Society（VFS：バーティカル フライト ソサエティ）が主催し、岐阜県で行われた国際会議「12th Asian/Australian Rotorcraft Forum／Heli Japan 2026」において、SkyDrive の航空機開発部門が発表した技術論文が「最優秀論文賞（Best Paper Award）」を受賞したことをお知らせします。

SkyDrive は、「100 年に一度のモビリティ革命を牽引する」をミッションに、「日常の移動に空を活用する」未来を実現するべく、コンパクトな空飛ぶクルマの開発をしています。大阪・関西万博では、当社の空飛ぶクルマ「SKYDRIVE（SkyDrive 式 SD-05 型）」のデモフライトを実施しました（※2）。



写真左から：日本バーティカルフライト協会　常任理事　田辺安忠氏（JAXA）／SkyDrive 航空機開発部門 ディレクター Hugo Stefanio de Almeida／日本バーティカルフライト協会　会長　阿部彰人氏（川崎重工業）



授与された最優秀論文賞（Best Paper Award）の賞状

受賞の背景および論文の概要

Vertical Flight Society（VFS）は、ヘリコプターや「空飛ぶクルマ」（eVTOL / AAM）などの垂直飛行技術の世界で最も権威ある専門学会です。このたび岐阜県で開催された国際会議「Heli Japan 2026」にて、SkyDrive のエンジニアリングチームが執筆した論文『SkyDrive Developing and Certifying an eVTOL Aircraft in Japan』が、審査を経て最優秀論文賞を受賞しました。

本論文では、実用化を見据えた 3 人乗り商用機「SKYDRIVE（SkyDrive 式 SD-05 型）」の設計戦略や、国の安全基準（型式証明）をクリアするための開発プロセスを詳しく解説しています。実際の飛行試験で得られた膨大なデータに基づく実践的な開発アプローチが高く評価されました。主なポイントは以下の通りです。

都市の移動に最適な機体デザイン（マルチコプター型）：
街中の移動（半径 30km 圏内）に特化し、主翼を持たずに複数のプロペラだけで飛ぶ構造を採用しました。プロペラ面積に対して機体を軽く設計することで、空中で静止（ホバリング）する際のエネルギー消費を従来の他形式と比べて約 1/2〜1/3 に削減し、離着陸時に地上へ吹き下ろす強い風も抑えています。

プロペラ同士の風の干渉を解明：
密集して回る 12 基のプロペラと機体の間で発生する「複雑な空気の乱れ（空力干渉）」をコンピューターでシミュレーション解析し、JAXA（宇宙航空研究開発機構）の風洞施設を用いた模型実験で解析の精度を検証しました。

1 基が止まっても飛び続けられる安全な電子制御（フォールトトレランス）：
パイロットの操縦に合わせて 12 基のモーター回転数を瞬時に最適配分する独自の電子制御システムを開発しました。万が一飛行中にモーターが 1 基止まるようなトラブルが起きても、残りのモーターが即座にバランスを取り直し、安定して飛び続けられる高い安全性を備えています。

機体の揺れと制御の共振（揺れの増幅）を防止：
炭素繊維強化プラスチック（CFRP）を使った軽量な機体はしなりやすいため、飛行制御のタイミングと機体の振動が重なって揺れが大きくなる課題があります。地上で機体を揺らす振動実験を徹底して行い、特定の揺れを打ち消す制御フィルターを組み込むことで、国際的な安全基準を上回る安定性を示しました。

300 回超の実機テストによる裏付け：
2 機の実証機を用いて 300 回以上の飛行・地上テストを重ね、実用速度域の 100km/h での飛行や、バッテリーの温度管理が想定通り機能することを実際の環境で検証しました。

これらの実証機による開発とテストで得られたデータは、国土交通省による安全認証（型式証明）を取得するための最終仕様機にすべて組み込まれています。現在は設計審査をクリアし、実機の製造段階へと進んでいます。

論文タイトル：
SkyDrive Developing and Certifying an eVTOL Aircraft in Japan
（SkyDrive：日本における eVTOL 航空機の開発と型式証明取得）

著者：
- Hugo Stefanio de Almeida（航空機開発部門 ディレクター）
- 越智 章生（機体開発部 部長 / チーフエンジニア）
- Arnaud Coville（最高技術責任者 / CTO）

論文へのリンク：
https://drive.google.com/drive/folders/1vEI2o_hYoKH9m_GB75CCrUpHZsGJ4hWs?usp=drive_link

株式会社 SkyDrive 最高技術責任者（CTO）Arnaud Coville の コメント
前例のない空飛ぶクルマの開発において、最も重要な柱となるのは徹底した安全性と型式証明への適合です。垂直離着陸機分野において世界的権威を持つ VFS から最優秀論文賞をいただけたことは、SkyDrive のエンジニアリングチームが積み上げてきた緻密な検証と設計思想が国際水準で認められた証であり、たいへん誇りに思います。執筆陣をはじめ、日々技術の限界に挑戦し続けているエンジニア全員の努力を讃えるとともに、今後も安全かつ信頼性の高い機体開発を推進し、空の移動革命の実現に向けて着実に前進してまいります。

SkyDrive は多くの方々の日常に溶け込む「空の移動」の実現を目指し、2028 年のサービス開始に向けて取り組んでまいります。

※1 空飛ぶクルマとは：電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸などの運航形態によって実現される、利用しやすく持続可能な次世代の空の移動手段です。諸外国では、Advanced Air Mobility（AAM）や Urban Air Mobility（UAM）と呼ばれています。

引用元：国土交通省（令和 8 年 3 月付）https://www.mlit.go.jp/koku/content/001994084.pdf

※2 関連プレスリリース：https://skydrive.co.jp/archives/65240

≪株式会社SkyDrive　概要≫

設立	2018 年 7 月
代表者	代表取締役 CEO　福澤知浩
ＵＲＬ	https://skydrive.co.jp/
所在地	豊田本社：愛知県豊田市挙母町 2-1-1 豊田開発センター：愛知県豊田市西中山町山ノ田 20-2 豊田テストフィールド：愛知県豊田市足助地区 名古屋空港オフィス：愛知県西春日井郡豊山町大字豊場 県営名古屋空港 2F 東京オフィス：東京都千代田区平河町 1-3-13 平河町フロントビル 3F 大阪オフィス：大阪府大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第一ビル 8F 山口テストフィールド：山口県山口市阿知須
子会社	株式会社 Sky Works：静岡県磐田市 SkyDrive America, Inc. ： Beaufort, South Carolina 29902, U.S.A. 株式会社 AlterSky：愛知県豊田市
事業内容	「100 年に一度のモビリティ革命を牽引する」をミッションに掲げ、「日常の移動に空を活用する」未来の実現を目指しています。2018 年 7 月の設立以来、愛知県豊田市を主拠点にコンパクトな「空飛ぶクルマ」を開発し、静岡県磐田市のスズキグループ工場で製造を開始しています。官民協議会の構成員として制度設計にも関与し、2020 年には日本初となる公開有人飛行試験に成功、2025 年の大阪・関西万博でのデモフライトを経て、2028 年のサービス開始に向けた取り組みを加速させています。

本件に関するお問い合わせ

≪株式会社 SkyDrive≫
広報
Email: info@skydrive.co.jp
https://skydrive.co.jp/contact